



祖母と行った。母と観た。娘と来た。逢いたかったタカラヅカがいまここに

宝塚歌劇100周年記念

# 宝塚歌劇 100年展

*Takarazuka Revue 100<sup>th</sup> Anniversary Exhibition*

夢、かがやきつづけて



2014.8/5<sup>火</sup> - 9/28<sup>日</sup>

阪神・淡路大震災20年展

## 宝塚歌劇100周年記念

### 宝塚歌劇100年展 —夢、かがやきつづけて—

Takarazuka Revue 100th Anniversary Exhibition

祖母と行った。母と観た。娘と来た。

逢いたかったタカラヅカがいまここに



3.宝塚大劇場星組公演『眠らない男・ナポレオン〜愛と栄光の涯に〜』フィナーレ  
 2014(平成26)年

## 開催趣旨

日本の演劇史上に輝かしい軌跡をのこし、多くの人々に夢と感動をあたえ続けている宝塚歌劇100周年を記念して開催します。宝塚歌劇の歴史は、明治43(1910)年の箕面有馬電気軌道開通を契機につくられた娯楽施設、宝塚新温泉場に設けられた劇場で、大正3(1914)年4月1日を初日として行われた宝塚少女歌劇公演に始まります。創設者の小林一三(1873-1957)が提唱した「新しい国民劇の創成」という理念のもと、宝塚歌劇はオペラ、レビュー、歌舞伎、新劇など様々な要素を採り入れながら独創的な世界を開いてきました。戦争や災害など様々な困難を乗り越え、多くのスターを生み出し、「ベルサイユのばら」「風と共に去りぬ」

など空前のヒット作を生み、国民的エンターテインメントとしての地位を確立した現在でも、「宝塚」は常に新たな可能性に挑み、さらなる変貌と進化を遂げようとしています。宝塚歌劇団ならびに阪急電鉄などグループ会社の全面的な協力の下で開催する本展では、華やかな舞台で人々を楽しませ、独自の演劇文化を築いてきた宝塚歌劇の100年を、多彩な資料、美術作品、舞台装置等により様々な観点から紹介します。観て、感じて、体験する立体的な展示を通して、日本の演劇界、日本の文化に大きな役割を果たしてきた宝塚歌劇の魅力が堪能していただける機会となるでしょう。

## 会期等

会期：2014年8月5日(火)～9月28日(日)

休館日：月曜日(ただし、9月15日(月・祝)開館、翌16日(火)休館)

開館時間：10:00～18:00

※金・土曜日は夜間開館(20:00まで)

※入場は閉館の30分前まで

会場：兵庫県立美術館 企画展示室

主催：兵庫県立美術館、日本経済新聞社、毎日新聞社、神戸新聞社

協賛：東芝、三井住友VISAカード

後援：兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、  
 宝塚市、宝塚市教育委員会、テレビ大阪、サンテレビジョン、  
 スポーツニッポン新聞社、デイリースポーツ

協力：阪急電鉄株式会社、宝塚歌劇団、公益財団法人 阪急文化財団、  
 株式会社 宝塚クリエイティブアーツ、  
 株式会社 阪急コミュニケーションズ、  
 株式会社 宝塚舞台

観覧料：一般1,300(1,100)円 大学生900(700)円

高校生・65歳以上650(550)円 中学生以下無料

※( )内は、前売および20名以上の団体割引料金

(高校生・65歳以上は前売なし)

※障がいのある方とその介護の方1名は各当日料金の半額

(65歳以上は除く)

※割引を受けられる方は、証明できるものを持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めください。

※県美プレミアム展の観覧には別途観覧料金が必要です(本展とあわせて観覧される場合は割引あり)

※前売券は5月12日(月)から8月4日(月)まで販売します。会期中は販売しません。

※主なチケット販売場所：チケットぴあ(Pコード988-807)、ローソン(Lコード54100)、ファミリーマート、セブン-イレブン、サークルK・サンクス、イープラス、CNプレイガイドほか

※詳しい情報は当館ホームページをご覧ください。

展覧会のみどころ

**1** 100年の歴史を、脚本、衣装・舞台のデザイン画、各種出版物、ポスター、写真、映像等の貴重な資料でたどります。



4. 歌劇『ドンブラコ』 第3場 1914 (大正3) 年



5. レビュー『モン・パリ』 1927 (昭和2) 年



6. 『宝塚ジャポニズム〜序破急〜』 2012 (平成24) 年



7. ミュージカル  
 『エリザベター愛と死の輪』  
 1996 (平成8) 年2〜3月 雪組



8. ミュージカル『ロミオとジュリエット』  
 2010 (平成22) 年7月 星組

**2** 大階段や豪華なステージ衣装を展示、宝塚歌劇の舞台の魅力に迫ります。



9. 体験用階段セット (写真はイメージです。)



10. レビュー『パリゼット』衣装復刻  
 1930 (昭和5) 年 月組

**3** 舞台の必須アイテム、背負い羽根やシャンシャンとともに記念撮影できるコーナーを設置、宝塚歌劇を体験できる構成とします。



11. 前期展示 (8月5日〜31日)  
 『TAKARAZUKA 花詩集100!!』衣装



12. 後期展示 (9月2日〜28日)  
 『眠らない男・ナポレオン』衣装

**4** 現役のタカラジェンヌや元タカラジェンヌが出演するイベントの開催や、100周年に寄せたメッセージボードの展示を行います。

**5** 宝塚歌劇を育んだ、阪神間モダニズムとよばれる文化的背景を美術作品によって紹介します。



13. 小倉遊亀 《コーちゃんの休日》 1960 (昭和35) 年 東京都現代美術館



**展示構成** 宝塚の現在、過去、未来を以下の3部で構成します。

## 第1部 100年の感動・夢舞台を重ねて

2014年度、花・月・雪・星・宙組に専科をあわせて400余名が100周年の記念すべき年に舞台に立ちます。「100年の愛を胸に一新たな伝説が今、始まる」をテーマに、宝塚から世界へ発信するオリジナル作品、『眠らない男・ナポレオンー愛と栄光の涯(はて)にー』の星組公演で2014年の舞台は幕を開けました。続いて花組公演『ラスト・タイクーンーハリウッドの帝王、不滅の愛ー』『TAKARAZUKA∞夢眩』、月組公演『宝塚をどり』『明日への指針ーセンチュリー号の航海日誌ー』『TAKARAZUKA花詩集100!!』、宙組公演『ベルサイユのばらーオスカル編』、雪組公演『ー夢庵風流記前田慶次』『My Dream TAKARAZUKA』など、2014年度の多彩な公演のラインナップをパネルやバナーで紹介するほか、大劇場でくり広げられる華麗な舞台を装置によって再現し、宝塚歌劇の現在の姿を紹介します。

## 第2部 夢を紡いで100年

100年前から現在までの宝塚歌劇の歩みを資料や美術作品等で回顧します。新しい国民劇創設のために小林一三が構想し、掲げた理念、創設から戦争を経て受け継がれてきた宝塚歌劇の歴史、精神、美意識を紹介します。また、宝塚歌劇の成立の背景となった1910年代から30年代にかけての「阪神間モダニズム」を絵画等の美術資料で紹介するコーナーを設け、宝塚歌劇を育んだ阪神間の文化的背景を探ります。

### ■第1章 1913ー1926年

#### 宝塚少女歌劇の誕生 小林一三の宝塚夢構想

1914(大正3)年4月、温泉場の余興としてスタートした宝塚少女歌劇は、第1回公演から、当時としては珍しかったオーケストラ伴奏を用い、分かりやすい歌詞で上演しました。4年後、東京進出を果たし、さらに大衆に向けた質の高い娯楽の提供のため大劇場を建設し、海外公演を実現するなど、小林一三の宝塚夢構想は着実に実を結んでいきます。その背景にあったのは、設立当初から、指導者に優秀な人材を採用し、音楽教育の基礎をしっかりと確立していた小林一三の経営理念でした。



14.歌劇『ドンブラコ』1914(大正3)年

### ■第2章 1927ー1938年

#### 夢の花開いて 日本初のレビュー『モン・パリ』上演

1924(大正13)年、小林一三の念願であった宝塚大劇場が完成。1927(昭和2)年、日本初のレビュー『モン・パリ』が、1930(昭和5)年には、『パリゼット』が上演され宝塚歌劇はレビュー時代を迎えました。一方、小林一三は海外向け作品の創作にも意欲的に取り組み、1938(昭和13)年、宝塚歌劇初の海外公演が実現しました。



15.『パリゼット』1930(昭和5)年 月組

### ■第3章 1939ー1945年

#### 戦争・激動の時代を乗り越えて

戦時下の宝塚歌劇は、戦時色が強い演目へと作風を変えながらも上演されつづけました。1940(昭和15)年には「宝塚歌劇唱舞奉仕隊」が結成され、全国各地を巡回して上演を行いました。1944(昭和19)年3月には宝塚大劇場が閉鎖されるという苦難に見舞われながらも宝塚歌劇は、果敢に移動隊公演を開催しました。

### ■第4章 1946ー1957年

#### 夢再び 名作からスター誕生、そして小林一三との別れ

1946(昭和21)年4月、宝塚大劇場は公演を再開。戦後は華やかで明るい作品が制作され、『虞美人』などの大ヒット作も生まれました。一時公職を追放されていた小林一三は、1951(昭和26)年8月に現場に復帰しました。1955(昭和30)年には接収されていたアーニーパイル劇場(東京宝塚劇場)が返還されるなど盛況を取り戻す中、小林一三は1957(昭和32)年1月25日に死去、宝塚大劇場で歌劇葬が行われました。

## ■第5章 1958-2004年

### 宝塚歌劇の発展 空前の宝塚ブームへ

1960年代、宝塚歌劇の東京公演が文化庁芸術祭に参加、『華麗なる千拍子』(1960年)、『火の島』(1961年)、『ウエストサイド物語』(1968年)が芸術祭賞(のち芸術祭大賞)を、『夜明けの序曲』(1983年)が大賞を受賞するなど、宝塚歌劇は芸術面で高い評価を受けました。1974(昭和49)年には、『ベルサイユのばら』が一大ブームを巻き起こし、次いで『風と共に去りぬ』(1977年)、『エリザベート』(1996年)などが大ヒットし、宝塚歌劇の人気演目となりました。1993(平成5)年1月に新宝塚大劇場が開場。1995(平成7)年1月17日に発生した阪神淡路大震災により休演を余儀なくされますが、同年3月31日に星組公演『国境のない地図』で再開。2001(平成13)年に新東京宝塚劇場が開場し、宙組が新設されて宝塚歌劇は新たな時代へと歩み出します。



16.『ベルサイユのばら』 1974(昭和49)年 月組

## ■第6章 2005-2013年 夢はつづく 新たな挑戦!

ブロードウェイ・ミュージカル『オクラホマ!』(1967年)に始まった海外ミュージカルの上演は、ロンドン・ミュージカル『ME AND MY GIRL』(1987年)、ウィーン・ミュージカル『エリザベート』(1996年)へと続きます。さらに映画やドラマ作品とのコラボレーションにより、ミュージカル化を成し遂げるなど、宝塚歌劇は常に新たな可能性に挑み続けています。

## 第3部 宝塚歌劇の今、そして未来へ

創始者小林一三の精神を守り続けて、生徒一人一人の支えの上にスターが輝き、宝塚歌劇は100年の歴史を刻んで来ました。101年、そして次の100年に向けて宝塚歌劇らしい、魅力的な作品創作への新たな挑戦が始まります。第3部では、宝塚歌劇の生み出したきら星のごとく輝くスター、作品、

### 阪神間モダニズムとタカラヅカ

#### 美術作品にみるタカラヅカ

この章では、宝塚歌劇草創期、都市化と郊外住宅地の開発によって変貌する阪神間の風景を描いた絵画や、宝塚歌劇の文化的背景である阪神間モダニズムの雰囲気伝える美術、ならびに宝塚歌劇と関連した絵画を紹介します。

大阪・神戸間を結ぶ官営鉄道、阪神、阪急の3つの路線の建設にともなう沿線の開発により、六甲山を背景に海を臨む明るく開放的な地域性も相まって、この地域に住む人々の間に新しいライフスタイルが形成され、阪神間モダニズムとよばれる文化的傾向が生まれました。大阪の庶民的感性と郊外生活のモダンな感覚が融合した洋画家の小出楳重(1887-1931)による風景画、阪神間の進取の気風を身につけ、抽象絵画のパイオニアとして後進にも大きな影響をあたえた吉原治良(1905-1972)の作品、気品のあるモダンな女性像で人気を博した小磯良平(1903-1988)の人物画、また新興写真の領域で先駆的な活動を繰り広げた写真家中山岩太(1895-1949)による宝塚歌劇のスター写真等を展示します。さらに、日本画家小倉遊亀(1895-2000)、美術家横尾忠則(1936-)による、宝塚歌劇をモチーフとした作品も展示します。



17.国枝金三 《中之島風景》 1927(昭和2)年 大阪新美術館建設準備室

舞台などを通して宝塚歌劇の魅力に迫ります。宝塚音楽学校の歴史や、新人公演、100年の名作紹介コーナーや、OG・現役スターからのメッセージなども紹介し、将来に向けての夢と展望に迫ります。

関連図版



18.『風と共に去りぬ』  
 1977 (昭和52) 年5～6月 星組  
 レット・バトラー：鳳蘭  
 スカーレット：遙くらら



19.『風と共に去りぬ』  
 2013 (平成25) 年9～11月 宙組  
 レット・バトラー：凰稀かなめ  
 スカーレット：朝夏まなと、七海ひろき



20.グランド・レビュー『春の踊り(宝塚物語)』  
 1954 (昭和29) 年4月 星組



21.宝塚大劇場宙組公演『風と共に去りぬ』 2013 (平成25) 年



22.宝塚大劇場花組公演『Mr. Swing!』フィナーレ  
 2013 (平成25) 年



23.宝塚大劇場月組公演『Fantastic Energy!』ラインダンス  
 2013 (平成25) 年



24.宝塚大劇場雪組公演『CONGRATULATIONS 宝塚!!』  
 フィナーレ 2013 (平成25) 年



## 関連イベント

### 記念講演会「宝塚歌劇と阪神間の文化」

講師：河内厚郎氏（演劇評論家、阪急文化財団理事）

8月17日（日）14:00～（約90分）

ミュージアムホールにて 聴講無料（定員250名）要展覧会観覧券

### こどものイベント

「きらきら髪飾り・きらきら蝶ネクタイをつくろう！」

舞台上で映えるきらきら輝く素敵髪飾り／蝶ネクタイをつくりまします。

講師：宝塚舞台衣装スタッフ

9月6日（土）10:30～15:00

要事前申込 要参加費（定員30名、小・中学生とその保護者）

問い合わせ先：こどものイベント係 TEL 078-262-0908

### 学芸員による解説会

8月16日（土）、30日（土）、9月13日（土）、27日（土）

16:00～（約45分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員100名・展覧会観覧券不要）

### ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎日曜日 11:00～（約15分）

レクチャールームにて 聴講無料（定員100名・展覧会観覧券不要）

※そのほか、現役のタカラジェンヌや元タカラジェンヌが出演するイベントを開催します。

詳細が決まり次第、当館ホームページなどでお知らせします。

### 同時開催の展覧会

県美プレミアム

〈小企画〉美術の中のかたち 一手で見る造形

横山裕一展「これがそれだがふれてみよ」

〈特集〉鳥・獣・人・等～新収蔵品を交えて（仮題）

7月19日（土）～11月9日（日）

会場：兵庫県立美術館 常設展示室

### 横尾忠則現代美術館での同時開催

阪神・淡路大震災20年展

横尾忠則展 枠と水平線と・・・

グラフィック・ワークを超えて

7月12日（土）～9月28日（日）

※特別展又は、県美プレミアムの有料チケット半券のご提示で、団体割引料金でご覧いただけます。

（詳細はHPなどでご確認ください）

## 広報用画像について

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

広報提供画像の使用にあたり、以下ご留意のほど宜しくお願いします。

### ①クレジット表記について

各画像演目・年・組名などに加え、必ず©宝塚歌劇団を併記して下さい。

※複数の画像を掲載する場合、©宝塚歌劇団は1つあれば問題ありません。

### ②トリミングについて

画像を切り取る場合、人物の顔上にかかるトリミングはご遠慮ください。

※「(部分)」表記の必要はありません。

## お問い合わせ先

### 兵庫県立美術館

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-1-1

代表 TEL: 078-262-0901 FAX: 078-262-0903

<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

展覧会公式HP

<http://www.nikkei-events.jp/takarazuka100>

### 企画内容に関すること

担当学芸員: 飯尾由貴子・相良周作

TEL: 078-262-0909 FAX: 078-262-0913

### 取材・写真提供に関すること

営業・広報グループ

TEL: 078-262-0905 FAX: 078-262-0903

## 交通案内

阪神岩屋駅(兵庫県立美術館前)から南に徒歩約8分

JR神戸線灘駅南口から南に徒歩約10分

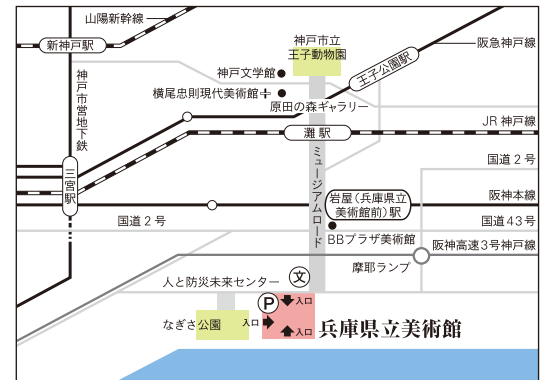
阪急神戸線王子公園駅西口から南西に徒歩約20分

JR三ノ宮駅南から神戸市バス(29・101系統)・阪神バスにて約15分 HAT神戸方面行き「県立美術館前」下車すぐ

地下駐車場: 乗用車80台収容・有料

\*ご来館はなるべく電車・バスをご利用ください

\*団体バスでお越しの場合は、バス待機所の予約をお願いします





## 広報画像申込書

営業・広報グループ 宛 FAX (078) 262-0903

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通 1-1-1 電話 (078) 262-0905 (直通)

ご希望の画像の番号に○をつけてください。後日データ (.jpg) をお送りいたします。

番号	各画像演目・年・組名など	番号	各画像演目・年・組名など
1	『ベルサイユのばらーオスカルとアンドレ編』 2013 (平成 25) 年	13	小倉遊亀 《コーちゃんの休日》 1960 (昭和 35) 年 東京都現代美術館
2	『パリゼット』 美しき階段 1930 (昭和 5) 年	14	歌劇『ドンブラコ』 1914 (大正 3) 年
3	宝塚大劇場星組公演『眠らない男・ナポレオンー愛と 栄光の涯にー』フィナーレ 2014 (平成 26) 年	15	『パリゼット』 1930 (昭和 5) 年 月組
4	歌劇『ドンブラコ』 第 3 場 1914 (大正 3) 年	16	『ベルサイユのばら』 1974 (昭和 49) 年 月組
5	レビュー『モン・パリ』 1927 (昭和 2) 年	17	国枝金三 《中之島風景》 1927 (昭和 3) 年 大阪新美術館建設準備室
6	『宝塚ジャポニズム〜序破急〜』 2012 (平成 24) 年	18	『風と共に去りぬ』 1977 (昭和 52) 年 5~6 月 星組
7	ミュージカル『エリザベートー愛と死の輪ー』 1996 (平成 8) 年 2~3 月 雪組	19	『風と共に去りぬ』 2013 (平成 25) 年 9~11 月 宙組
8	ミュージカル『ロミオとジュリエット』 2010 (平成 22) 年 7 月 星組	20	グランド・レビュー『春の踊り (宝塚物語)』 1954 (昭和 29) 年 4 月 星組
9	体験用階段セット (写真はイメージです)	21	宝塚大劇場宙組公演 『風と共に去りぬ』 2013 (平成 25) 年
10	レビュー『パリゼット』 衣装復刻 1930 (昭和 5) 年 月組	22	宝塚大劇場花組公演 『Mr. Swing!』 フィナーレ 2013 (平成 25) 年
11	前期展示 (8 月 5 日~31 日) 『TAKARAZUKA 花詩集 100!!』 衣装	23	宝塚大劇場月組公演 『Fantastic Energy!』 ラインダンス 2013 (平成 25) 年
12	後期展示 (9 月 2 日~28 日) 『眠らない男・ナポレオン』 衣装	24	宝塚大劇場雪組公演 『CONGRATULATIONS 宝塚!!』 フィナーレ 2013 (平成 25) 年

※上記画像を媒体掲載される際には、記載の演目・年・組名などに加え、必ず◎宝塚歌劇団を併記してください。

複数の画像を掲載する場合、◎宝塚歌劇団は 1 つあれば問題ありません。(画像番号 13・17 には不要です。)

※画像を切り取る場合、人物の顔上にかかるトリミングはご遠慮ください。「(部分)」表記の必要はありません。

※画像番号 7.8.18.19 の 1 点使いはご遠慮いただいております。縦位置の画像を 1 点でご使用の場合は、プレスリリース表紙のような本展覧会ポスター画像を提供できますので別途お問い合わせください。

※画像データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできません。ご了承ください。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		FAX	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日		画像到着希望日	
読者・視聴者プレゼント用招待券 (最大 5 組 10 名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組 名分希望		

※本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体 (VTR/DVD)、URL など  
を、上記営業・広報宛にお送りくださいますようお願いいたします。

※展覧会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。